

旭の里山・生きもの写真集

(岡山県美咲町旭地域)

その2 春の花





ショウジョウバカマ(シュロソウ科) 2018.04.12



チゴユリ(イヌサフラン科) 2016.04.23



シュンラン(ラン科) 2013.03.19



カサスゲ(カヤツリグサ科) 2017.04.23



トキワイカリソウ(メギ科) 2018.04.08



イチリンソウ(キンポウゲ科) 2017.04.25



ウマノアシガタ(キンポウゲ科) 2015.04.25



ユキワリイチゲ(キンポウゲ科) 2015.03.22



ムラサキケマン(ケシ科) 2017.04.25



アリアケスミレ(スミレ科) 2017.04.25



タチツボスミレ(スミレ科) 2013.05.07



シハイスミレ(スミレ科) 2013.04.08



ニオイタチツボスミレ(スミレ科) 2014.04.10



ヒメハギ(ヒメハギ科) 2013.05.02



ミツバツチグリ(バラ科) 2019.05.01



ヤマルリソウ(ムラサキ科) 2019.04.08



オドリコンウ(シソ科) 2015.04.25



キランソウ[ジゴクノカマノフタ](シソ科) 2019.04.12



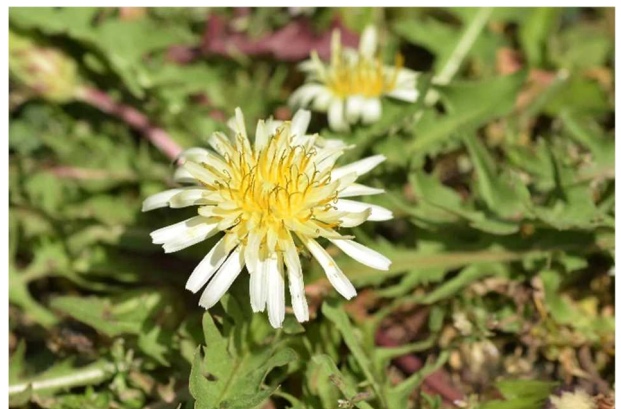
ホトケノザ(シソ科) 2013.03.29



サギゴケ[ムラサキサギゴケ](ハエドクソウ科) 2017.04.06



カンサイタンポポ(キク科) 2008.04.20



キビシロタンポポ(キク科) 2018.04.18



コオニタビラコ(キク科) 2016.04.08



ハハコグサ[ホオコグサ](キク科) 2015.04.25

※「春の七草」のホトケノザはコオニタビラコ、ゴギョウはハハコグサのことです。

リーフレット発刊について

遠い昔から、人々が食料やエネルギーを手に入れるために自然に手を加えながら調和のとれた持続可能な環境を作り上げてきた、そんな場所が里山です。そこには水田、畑、水路、ため池、雑木林、人家など多様な環境が存在し、様々な生活様式をもつ多くの動植物に生育場所や繁殖場所、食べ物などを提供してきました。そのために里山は「生物多様性の宝庫」と言われます。しかし、近年人々の生活様式の変化とともに里山の様子も大きく変わりました。水田の乾田化や耕作放棄、水路のコンクリート化、雑木林の放置などにより以前の里山環境はもはや消滅寸前と言ってもいいかもしれません。それに伴って多くの動植物が数を減らし、絶滅寸前の状況に追い詰められています。身近だった生きものが、最近全く姿を見ないということがよくあると思います。昔の暮らしに戻ることはできませんが、貴重な生きものがかろうじて命を繋いでいる場所だけでも保全して未来に引き継ぐことはできないでしょうか。私たちはここ何年か多くの方々の協力を得て試行錯誤をしながら、里山の環境と生きものの保全に取り組んできました。少しずつですが成果が出てきています。そのような「里山生態系保護フィールド」とでもいうような場所が小規模であっても各地域に存在すれば、貴重な生きものたちを守ることができ、学術的な価値も大きいと考えます。また未来を担う子どもたちの情操涵養や人々の心身の健康にも役立つのではないのでしょうか。里山の生きものたちの姿をできる限り多くの人々に紹介し、そのような生きものたちが身近にいることの価値を感じていただきたいとの思いで、生きものたちの写真を集めたリーフレットシリーズの製作を企画しました。掲載の写真は美咲町旭地域で撮影したものに限定しています（撮影場所の詳細は非公開とさせていただきます）。なお、紙面の都合で紹介できる生きもの数はごく一部に限られていますし、また内容的にも不十分な点が多いと思います。どうぞご容赦ください。見ていただいた感想などをお寄せいただけるとありがたいです。（石原隆志）

旭の里山・生きもの写真集 その2 春の花

2020年7月発行

発行責任者：石原隆志（岡山県自然保護推進員）、石原八束（同）

連絡先：hoonoki@mx32.tiki.ne.jp HP: <http://hoonoki-koubou.jp> 「岡山中北自然観察誌」

協力：岡山県自然保護センター、旭の自然を守る会

表紙写真：スマレ（スマレ科） 2019.05.01 撮影

裏表紙写真：ゲンゲ[レンゲソウ]（マメ科） 2014.05.02 撮影

※このリーフレットは、公益信託タカラ・ハーモニストファンド令和2年度活動助成を受けて作成しました。

※植物の和名と分類は「山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花」に従いました。

